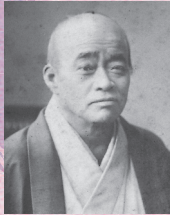


足尾銅山 ゆかりの人物



古河市兵衛
(1832―1903)

天保3(1832)年に京都の造り酒屋の二男として生まれた市兵衛は、若い頃から商才を認められ生糸貿易に手腕を発揮しました。その後、鉱山経営に乗り出し、草倉銅山(新潟県)、赤紫銅山(長野県)、幸生銅山(山形県)の経営に専念しました。

明治10(1877)年、当時経営不振が続いていた足尾銅山を買とり、陸奥宗光の協力や渡沢幸一の資金援助を受けて開発に当たりました。新技術の導入や近代化を図り、同20(1887)年には日本の全鉱産出量の40%を占めるまでになり、市兵衛は日本の鉱山王といわれるようになりました。



田中正造翁
(1841―1913)

栃木県佐野市小中町(旧旗川村)の名主の家に生まれ、区会議員から県議員、そして衆議院議員となりました。

衆議院議員となつてからは、足尾銅山の鉱毒問題を繰り返し国会でとりあげました。しかし、国の政策に改善が見られないことから、明治34(1901)年、天皇に直訴しました。

その後、政府は渡良瀬川下流に鉱毒を受け止める貯水池を設置するため谷中村を強制廃村とし、ここを遊水地(現・渡良瀬遊水地)としました。政府のやり方を不服とした正造は谷中村に移り住み、農民とともに村の貯水池に反対し続けました。政府による住居強制破壊の後も、死ぬまで谷中村から離れることはありませんでした。

日本初 in 足尾

明治16年●本山に日本初の洋式選鉱場を完成。

明治18年●本山坑口～本山選鉱場間に日本初のドコヴィール(インクライン)採用。

明治19年●民間初となる銅山私設電話が設けられた(23km)。

●水套式熔鉱炉を日本で初めて設置。

明治23年●細尾峠に日本初の架空索道(鉄索)が運転を開始し、馬車鉄道と連結。日光駅まで貨物輸送の大改革。

●間藤に水力発電所を開設し、日本で最初に電力を動力に活用。水源は深沢と松木川。

●有木坑竖坑に日本初の電気捲揚機を設置。

明治25年●本山～古河橋に日本初の電気機関車を運転。

明治30年●有木・小滝坑内に日本初のトロリー式電気機関車を設置。坑内鉱石運搬用に運行開始。

明治31年●京子内に民間で日本初の亜硫酸の測候所を開設。(大正3年に渡良瀬に移転)

明治43年●通洞坑光盛第1竖坑8番坑に坑夫の昇降用巻き上げ機を設置。日本初の坑内大立坑での人員昇降が開始される。

大正元年●日本初の産業安全運動として「安全専一」を導入する安全第一の始まり。

大正3年●日本初の国産第1号となる小型型岩機「足尾式三番型」を工作課で考案。

大正10年●県内初のメーデーを足尾で開催。鉱山としても初。

昭和29年●町立幼稚園2園(足尾・本山)が開園。栃木県初の公立幼稚園。



17 小滝の小滝

象山の下のカブ(象山の太曲り)から見える小さな滝で、地名の由来にもなりました。すぐ下の山岳橋からの眺めも最高です。



16 小滝の坑口 (市指定史跡)

昭和29(1954)年まで使われていた坑口。明治18(1885)年の旧坑道取り明けから約70年間銅を産出し続けました。



15 小滝の湯

坑内作業を終えた鉱夫たちが汗と汚れを落とした浴場跡からは、鉱夫たちの声が聞こえてくるようです。



14 小滝の里

小滝地域の中心だったところ。昭和29(1954)年に小滝坑が廃止され、すべての施設が撤去されました。同39(1964)年に当時の住民が記念碑を建立。現在は同61(1986)年に建て替えられた二代目の碑と、平成7(1995)年に建立された歌碑があります。



13 足尾キリスト教会 (国登録有形文化財)

イギリスの鉱山王グリーン・ピビアンは世界各国の首位鉱山所在地に教会を建てており、日本では足尾銅山が選ばれました。明治41(1908)年に献金された建設資金2,500円で建てられました。



9 波之利大黒天

日光開山の祖、勝道上人が中禅寺湖畔で修行中、毎年白鼠が穂をくわえてくるので、鼠の足にひも(緒)を結んで後を追うと、足尾の現在の大黒橋畔の洞穴に入っていました。その場所に波之利大黒を刻み、この地を足尾と名付けたといわれています。



7 古河橋 (国重要文化財)

明治23(1890)年に完成した古河橋は、ドイツ人の設計による長さ50m、幅4.6mのトラス式鉄橋で、日本に現存する道路用鉄橋の中でも古いものに数えられるひとつです。



6 本山鉱山神社 (国指定史跡・市有形文化財)

明治22(1889)年に銅山の繁栄を願って、坑長以下、本山に働く坑夫一同からの寄進3,279円53銭によって造営されました。この神社を中心に銅山の繁栄を願って山神祭が行われるなど、人々の生活と一体となっていました。



5 本山製錬所跡 (国指定史跡)

銅山の歴史と共に歩んできた製錬所は、常に日本にある製錬所の先端を行く製錬法をつくり出し、国内はもとより世界中からも注目を集めていました。昭和48(1973)年2月閉山。その後輸入鉱石を製錬していましたが、平成元(1989)年に完全に操業を停止しました。(写真右:昭和48年頃の様子)



2 愛宕下カラミ煉瓦防火壁

この地区は愛宕下といい、明治40年代から製錬所で働く人々のため社宅がつくられ、赤長屋とも呼ばれていました。当時は火事が多かったため、建物の横に防火壁がつくられ延焼を防いでいました。壁の材料は銅製錬のときに出る鉄分を多く含む副産物(カラミ)を型に流し固めたものです。



4 製錬所大煙突

大正8(1919)年に建てられた、高さ約50m、直径が下部約6m、上部約4mもある大煙突で、製錬所のシンボルです。



3 龍蔵寺・旧松木村石碑

日光山輪王寺を本寺とする天台宗のお寺です。坑夫の墓や、廃村となった旧松木村からお墓が移されています。



1 旧松木村跡

松木地域には中世以来3つの山村がありましたが、明治17年建設の直利橋製錬分工場から排出された亜硫酸ガスの影響や山林の乱伐、大火により住居は減少していき、明治35(1902)年には廃村となりました。

江戸時代から昭和にかけて、約四百年間にわたり「銅山のまち」として栄えた足尾にはその記憶をとどめるたくさんの産業遺産が点在しています。それらの遺産が語るメッセージを未来に伝えるために「まち全体を博物館」とする構想のもと、様々な取り組みを進めています。また、銅を取り出すための製錬による煙害や森林の伐採、大火などによって失われた山の緑を回復させようと、国や県、NPOが植樹作業にも取り組んでいます。そんな産業遺産と環境学習のまち・足尾を歩いてみませんか？

産業遺産と環境学習のまち・足尾を訪ねて



nature

日本特有の貴重な草食動物 カモシカ

体高約70cm・体重30～40kg。雄・雌とも黒色の短角があります。日本特有の貴重な草食動物で、昭和30(1955)年に特別天然記念物に、同39(1964)年には栃木県の県獣に指定されました。



世界でも珍しい食虫植物 コウシンソウ

足尾のシンボルともいえる希少な植物。庚申山の岩場のごく一部に自生し、6月中旬頃にうすい紫色の可憐な花を咲かせます。群生地が特別天然記念物に指定されています。



圧倒的な景観 松木溪谷

切り立った岩壁、天を突くような岩稜、そびえたつ景観は、見る者を圧倒します。足尾銅山の煙害や山火事などによって緑が失われた山肌には、砂防工事やボランティアによる植樹が行われ、少しずつ緑が戻ってきています。

足尾銅山発見の地 備前楯山



標高1,273m。もとは黒岩山といわれていましたが、備前国の農民2人が1610年に銅鉱を発見したことから備前楯山と名付けられました。登山口の舟石峠から遊歩道が整備され、山頂からは270度の眺望が広がり日光山系男体山や袈裟丸山などの山容が見えます。

●トレッキングコース



古くから信仰の山とし崇められた霊峰 庚申山



標高1,892m。古くから信仰の山として知られていて、江戸時代に建てられた道標や石碑が数多く残っています。「関東ふれあいの道」として登山道は整備され、筑波山や夜には遠く犬伏崎の灯が見えます。特別天然記念物のコウシンソウの自生地としても知られています。

●トレッキングコース



日本百名山の一つでもある足尾連山の主峰 皇海山



標高2,144m。群馬県との境に位置し足尾連山の主峰。日本百名山の一つに数えられています。手前の登山道からは上越の峰が一望できます。

●登山コース

